エンジン

GX120

取扱説明書

お買いあげありがとうございます。
ご使用になる前に、必ずこの取扱説明書を
お読みください。

はじめに

- この取扱説明書は、お買いあげいただいたエンジンの正しい取扱い方法、簡単な点検および手入れについて説明しています。ご使用の前にこの取扱説明書を良くお読みください。

安全に関する表示について
本書では、作業者や他の人が傷害を負ったりする可能性のある事柄を下記の表示を使って記載し、その危険性や回避方法などを説明しています。これらは安全上特に重要な項目です。必ずお読みいただき指示に従ってください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

取扱いのポイント
指示に従わないと、本機やその他のものが損傷する可能性があるもの

取扱説明書について
この取扱説明書は
- エンジンを操作するときは、必ず身近な所に置いてください。
- エンジンを貸与または譲渡される場合は、本機と一緒にお渡しください。
- 紛失や損傷したときは、お買いあげいただいた販売店にご注文ください。

- なお、この取扱説明書は、仕様変更などによりイラスト、内容が一部実機と異なる場合があります。

e-SPECは、Hondaが「豊かな自然を次の世代に」という願いを込めた汎用製品環境対応技術の証です。

本製品は、(社)日本陸用内燃機関協会の小型汎用ガソリン　エンジン排出ガス自主規制に適合しています。

●安全ラベル
Hondaエンジンを安全に使用していただくために、本機には安全ラベルが貼ってあります。
安全ラベルをすべて読んでからご使用ください。
ラベルはハッキリと見えるように、きれいにしておいてください。
本機に貼ってあるラベルが汚れ、破れ、紛失などで読めなくなってしまったときは、新しいラベルに貼り替えてください。また、安全ラベルが貼られている部品を交換する場合はラベルも新しい物を貼ってください。
安全ラベルはお買いあげ販売店にご注文ください。

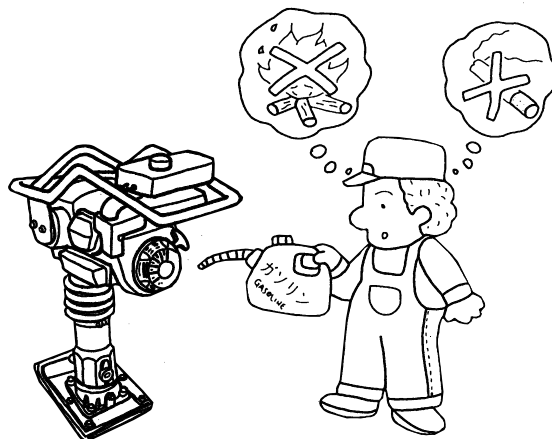
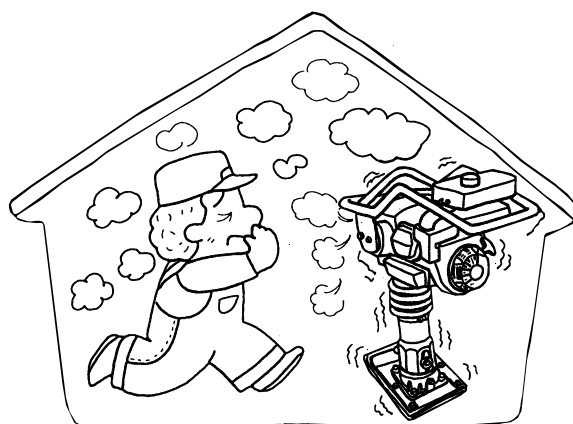
※これらの安全ラベルは実機に合わせ適切な位置に貼られています。

安全にお使いいただくために これだけはぜひ守りましょう

警告

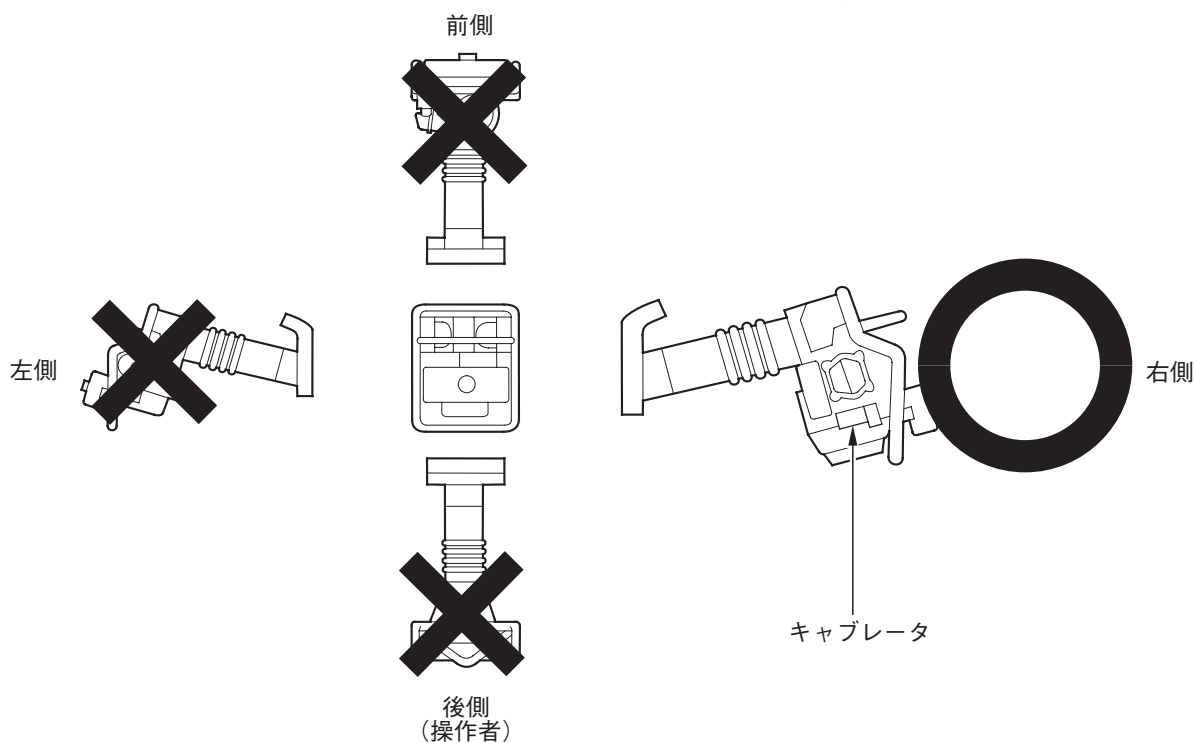
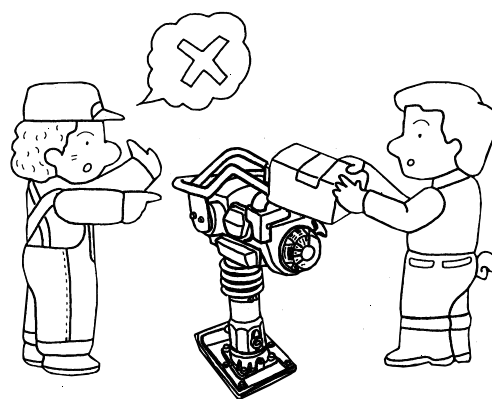
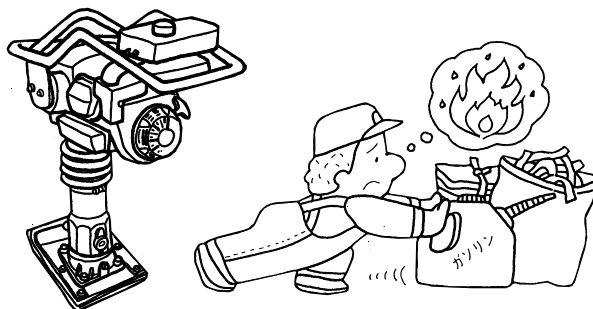
あなたと他の人の安全を守るために次の指示に従ってください。

●この取扱説明書を事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解の上、操作してください。
●また、作業機の取扱説明書も事前に読み、正しい取扱い方法を十分にご理解ください。
間違いなく取扱うために各部の操作に慣れ、すばやく停止する方法を習得してください。
●エンジンを始動する前に必ず「エンジンを始動する前に点検しましょう」(５～６頁)を行ってください。事故や機器の損傷防止になります。
●適切な指示、説明なしでは絶対に誰にも本機の運転操作をさせないでください。また、子供には絶対にさわらせないでください。事故や機器の損傷が起こる原因となります。
●カバーやラベル類、その他の部品を外してエンジンを操作しないでください。また弊社がみとめない改造または使用はしないでください。思わぬ事故の原因となることがあります。
●過労や飲酒、薬物を服用してエンジンを使用しないでください。判断が鈍り重大な事故を引き起こすことがあります。
●エンジンの日常点検、整備を必ず行い、不具合のある場合は使用前に修理してからご使用ください。

●ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。燃料を補給するときは必ずエンジンを停止して換気の良い場所で行ってください。
●燃料を補給するときや燃料タンクの付近では、タバコを吸ったり炎や火花などの火気を近づけないでください。
●燃料をこぼさないように注意し、所定のレベルを超えないように補給し、燃料キャップを確実に締めてください。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

●室内、車内、倉庫、トンネル、井戸、船倉、タンク内などの換気の悪い所では使用しないでください。有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがあります。
●排気ガス中には有害な成分が含まれています。ご使用になる方はもちろん、まわりの人や動植物などにも十分注意してください。
●建物や遮へい物などで風通しの悪い場所、また排気ガスがこもる場所などでも有害な一酸化炭素がたまってガス中毒を引き起こすことがありますので使用しないでください。

警告

●エンジンのまわりには、わらくず、紙くず、木くずなどの燃えやすいものや、油脂類、石油製品、火薬などの危険物を近づけないでください。火災や爆発の危険があります。

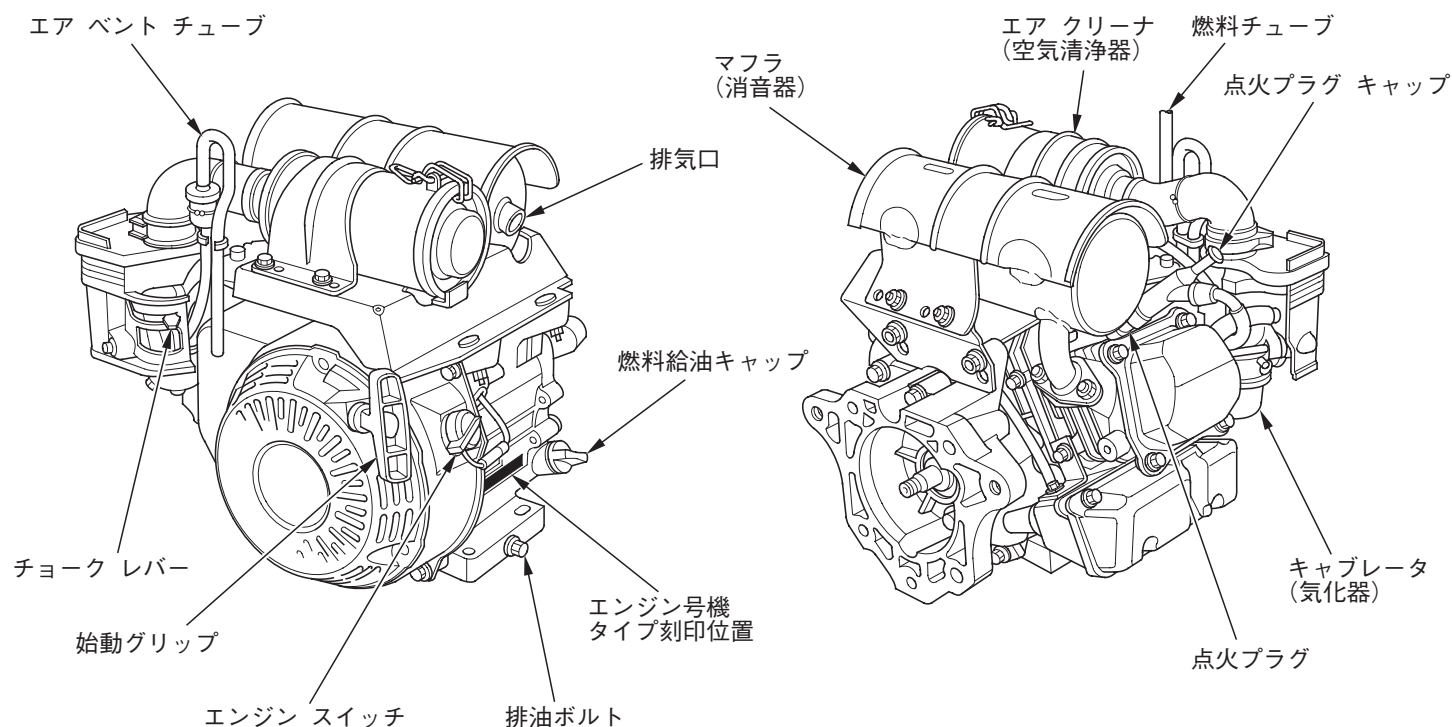
●運転中はもちろん、使用しないときも、エンジンの上部に物を置かないでください。変形したり、思わぬ事故を引き起こすことがあります。
●運転中や停止直後はエンジン本体やマフラなどに触れないでください。
熱によりヤケドをするおそれがあります。
●運転中は高電圧コードやプラグ キャップに触れないでください。感電のおそれがあります。

●ランマーを横に倒すときは燃料コックを閉じ必ずキャブレータが上になる方向に倒してください。指定方向以外に倒すと場合によっては燃料がこぼれて火災のおそれがあります。もし燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取りよく乾かしてからエンジンを始動してください。

※イラストは本機を上から見た場合です。

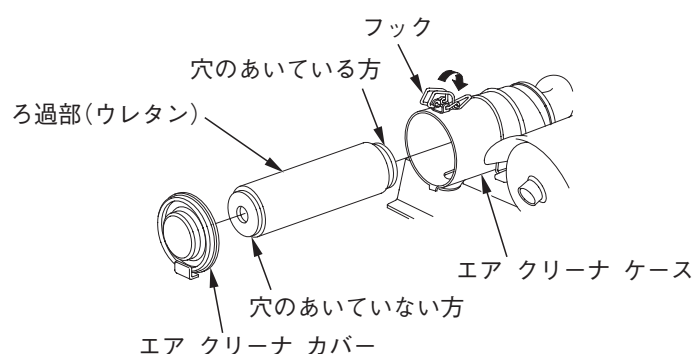
エンジンを始動する前に点検しましょう

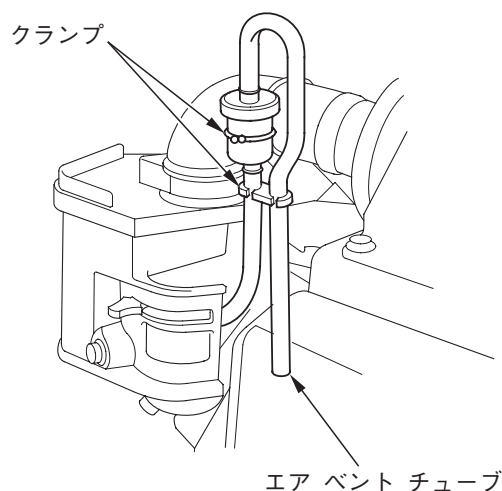
⚠警告

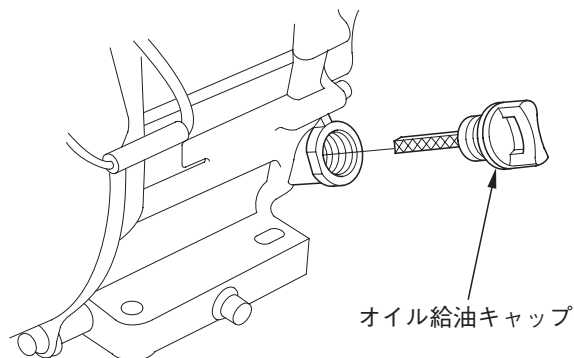
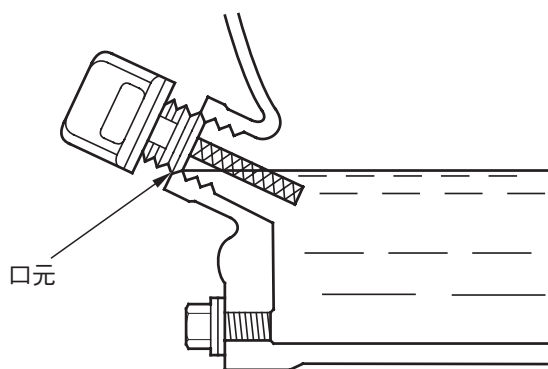
点検は本機(ランマー)を水平な所に置いて、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。

各部の名称と点検箇所

エア クリーナ(空気清浄器)の点検

フックを外して、エア クリーナ カバーを外し、ろ過部(ウレタン)が汚れていないか、点検します。

- 汚れのひどい場合は清掃をしてください。(清掃方法は11頁参照)
- ろ過部(ウレタン)が汚れているとエンジン性能が低下します。
- ろ過部を取付けるときは、穴のあいている方をエア クリーナ ケース側に、穴のあいていない方をエア クリーナ カバー側に取付けてください。

エア ベント チューブの点検

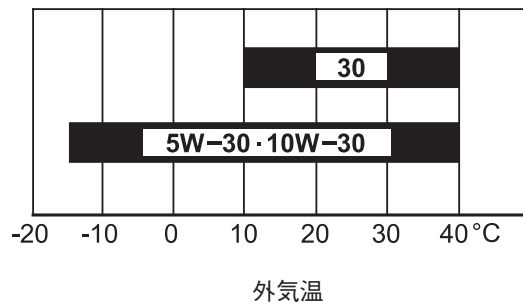
エア ベント チューブが図のように取付けられ、つぶれや折れ曲がりが無いことを確認します。
また、正しくクランプにセットされているか確認してください。

エンジン オイルの点検

《点検》
本機（ランマー）を水平な所に置いてオイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検してください。

《補給》
・不足している場合は、新しいオイルを口元まで補給してください。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。（交換時期、方法は10頁参照）

《推奨オイル》 （４サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラＵ汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

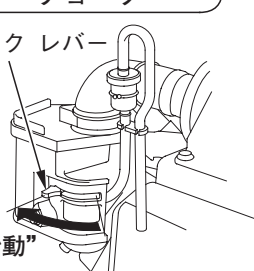
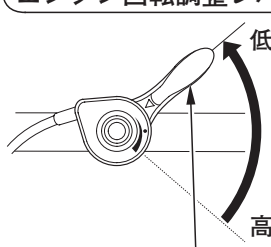
《オイル容量》 0.40 ℓ （ランマー搭載角度14゜時）
※ オイル量は本機の設定傾斜角度により異なります。

エンジン オイルは、外気温に応じた粘度のものを表にもとづきお使いください。

外気温

取扱いのポイント

オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。

各部の締付け

各部の締付けがゆるんでいないか点検します。

エンジンのかけかた

⚠警告

・排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

かけかた

1 本機側の取扱説明書に従い燃料コックを開きます。

2 **チョーク**

・寒いときやエンジンがかかりにくいときにはチョーク レバーを**"始動"**の位置にあわせます。

・エンジンが暖まっているときは操作不要です。

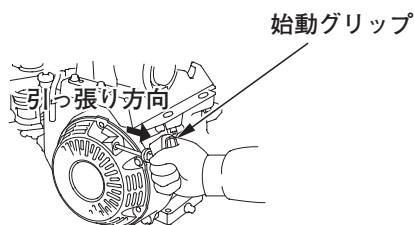
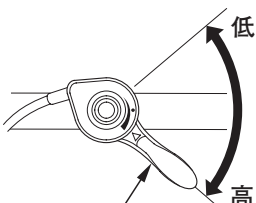
3 **エンジン回転調整レバー**（本機側）

・エンジン回転調整レバーを矢印の方向にいっぱい（低の位置）に戻してください。

4 **エンジン スイッチ**

・エンジン スイッチを**"ON"**（運転）の位置にします。

5 **始動グリップ**

本機側の安全な部分をしっかり押さえ、始動グリップを静かに引き、重くなるところで止めます。次に矢印方向に強く引っ張ります。

取扱いのポイント

・始動グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置や回りの部品を破損することがあります。

・運転中は始動グリップを引かないでください。エンジンに悪影響をあたえます。

6 **始 動**

・２～３分間暖機運転を行ってください。

7 **チョーク**

・チョーク レバーを**"始動"**にしたときは、エンジン回転が安定することを確認しながら徐々に**"運転"**の方向に戻します。

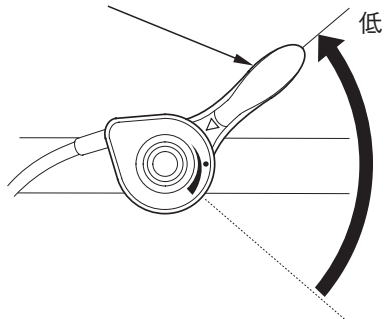
8 **作 業** **エンジン回転調整レバー**（本機側）

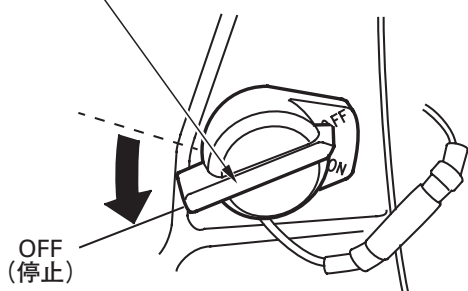
・エンジン回転調整レバーを、使用したい回転数に調整します。

・アイドルから作業に移るときはエンジン回転調整レバーを一気に操作してください。

エンジンのとめかた

とめかた

1 エンジン回転調節レバー

・エンジン回転調整レバーを矢印の方向にいっぱいに（一気に）戻します。

2 エンジン スイッチ

・エンジン スイッチを“OFF”（停止）の位置に回します。

3

本機側の取扱説明書に従い燃料コックを閉めます。

定期点検を行いましょう

お買いあげいただきましたHondaエンジンをいつまでも安全で快適にお使いいただくために定期点検を行いましょう。

定期点検表

点検時期（３） 点検整備項目		作業前点検	１ヵ月目 または 初回20時間 運転目	３ヵ月毎 または 50時間 運転毎	６ヵ月毎 または 100時間 運転毎	１年毎 または 300時間 運転毎
エンジン　オイル	点検	○				
	交換		○		○	
エア　クリーナ	点検	○				
	清掃			○（１）		
	交換					○（＊）
点火プラグ	点検、調整				○	
	交換					○
燃料ろ過カップ	清掃				○	
アイドル回転	点検、調整					○（２）
吸入、排気弁のすき間	点検、調整					○（２）
燃焼室	清掃	500時間運転毎（２）（４）				
燃料タンク、燃料ろ過網 （本機側）	清掃				○（２）	
燃料チューブ	点検	２年毎（必要なら交換）（２）				

（＊）紙ろ過部のみ交換してください。

（１）ほこりの多い場所で使用した場合、エア　クリーナの清掃は10時間運転毎または１日１回行ってください。
（２）これらの項目は適切な工具と整備技術を必要としますので、お買いあげ販売店へお申しつけください。
（３）点検時期は表示の期間毎または時間運転毎のどちらか早い方で実施してください。
（４）表示時間を経過後すみやかに実施してください。

⚠警告

- 点検は本機（ランマー）を水平な所に置いて、エンジンを停止して行ってください。誤ってエンジンがかからないように点火プラグ キャップを外してください。
- 排気ガスには有毒な一酸化炭素が含まれています。屋内や換気の悪い場所ではエンジンを始動しないでください。一酸化炭素によるガス中毒のおそれがあります。

エンジン オイルの交換

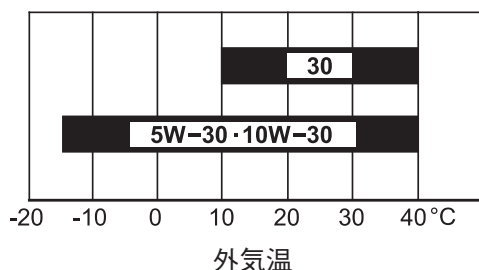
エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

⚠注意

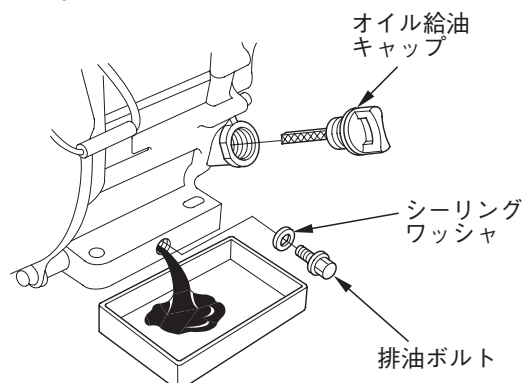
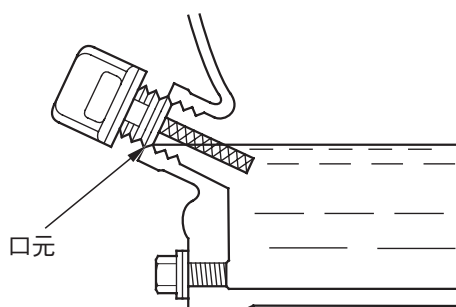
- **エンジン停止直後はエンジン本体の温度や油温が高くなっています。十分に冷えてからオイル交換を行ってください。ヤケドをするおそれがあります。**

《**交換時期**》……初回：1か月目または20時間運転目、以後：6か月毎または100時間運転毎

《**推奨オイル**》（4サイクル ガソリン エンジン オイル）
Honda純正ウルトラU汎用（SAE10W-30）
またはAPI分類SE級以上のSAE10W-30オイルをご使用ください。

エンジン　オイルは、外気温に応じた粘度の
ものを表にもとづきお使いください。

《**規定量**》 交換時： **0.30 ℓ** （ランマー搭載角度14゜時）
※オイル量は本機の設定傾斜角度により異なります。

《**交換方法**》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. 排油ボルトをきれいに洗い、新しいシーリング ワッシャを取付け、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けます。

取扱いのポイント

- **交換後のエンジン オイルはゴミの中や地面、排水溝などに捨てないでください。オイルの処理方法は法令で義務付けられています。法令に従い適正に処理してください。不明な点はオイルをお買いあげになったお店にご相談のうえ処理してください。**
- **オイル給油キャップは確実に締付けてください。締付けがゆるいとオイルが漏れることがあります。**
- **オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検、交換を行ってください。**

エア クリーナ(空気清浄器)の清掃

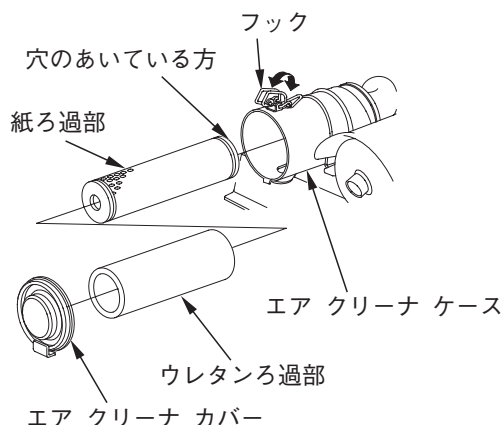
エア クリーナが目づまりすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

⚠警告

・洗い油は引火しやすいので、タバコを吸ったり、炎などの火気を近づけないでください。火災を起こす可能性があります。
・清掃は換気の良い場所で行ってください。

《清掃時期》…… 3か月毎または50時間運転毎
ホコリの多い場所で使用した場合は1日1回
《交換時期》…… 1年毎または300時間運転毎(紙ろ過部)

《清掃》

1．フックを外してエア クリーナ カバーを外します。
2．ろ過部(ウレタン、紙)を外します。
3．ウレタンろ過部は洗油でよく洗い、よく絞ってから乾かします。乾燥後、エンジン オイルに浸した後に固く絞ります。
4．紙ろ過部は内側から圧縮空気を吹付けるか、または軽く叩いて汚れを落とします。
5．ろ過部(ウレタン)を取付け、ろ過部(紙)の穴のあいている方をエア クリーナ ケース側に取付け、エア クリーナ カバーを確実に取付けます。

取扱いのポイント

・エア クリーナ カバーの取付けは確実に行ってください。取付けが悪いと振動でカバーが外れることがあります。
・エア クリーナ カバーやろ過部の組付けを忘れたり、取付けが悪いとホコリなどが入り、エンジンに悪影響を与えます。

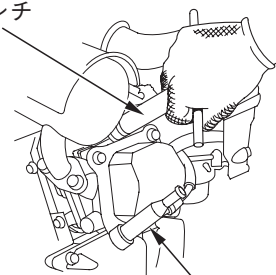
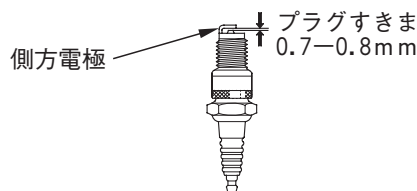
点火プラグの点検・調整・交換

電極が汚れていたり、プラグすきまが不適当な場合、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

⚠注意

エンジン停止直後のマフラや点火プラグなどは非常に熱くなっています。ヤケドをしないように作業はエンジンが冷えてから行ってください。

《点検・調整》…… 6か月毎または100時間運転毎
《交換時期》…… 1年毎または300時間運転毎
《指定プラグ》… BP4ES(NGK)　W14EP-U(DENSO)
《清掃》

1．点火プラグ キャップを外して、プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2．汚れている場合はワイヤ ブラシ等で側方電極部を清掃してください。

《調整》
側方電極を曲げて、プラグすきまを下記寸法に調整します。
プラグすきま：0.7−0.8mm
取付けはまず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチ、プラグ レンチ ハンドルで確実に締付けます。プラグ キャップを確実に取付けます。

取扱いのポイント

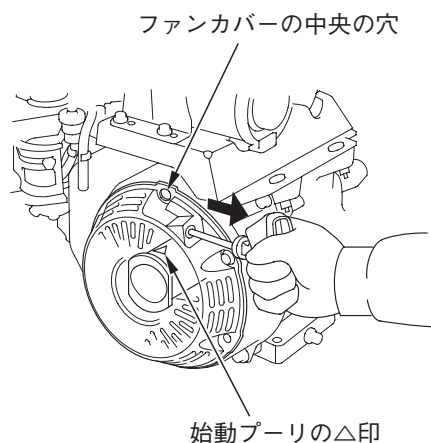
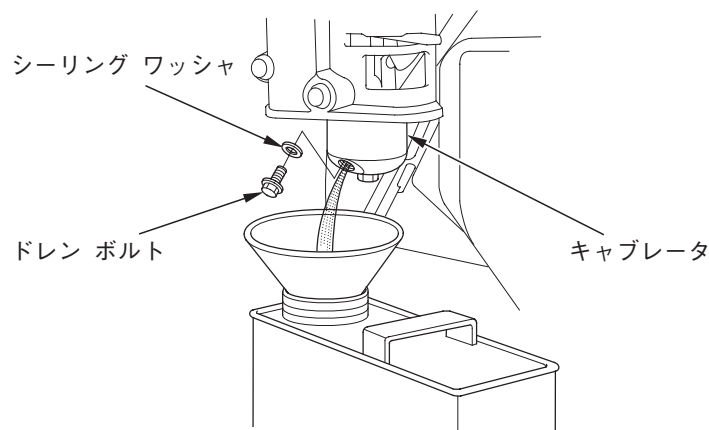
故障の原因となるので指定以外のプラグを使用しないでください。プラグの取付けは、ネジ山を壊さないように、はじめに指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。
点検調整後はプラグ キャップを確実にセットしてください。確実にセットしないとエンジン不調の原因になります。

長期間使用しないときの手入れ

長期間使用しない場合、または長期間格納する場合は次の手入れを行ってください。
30日以上使用しないときは、燃料タンクとキャブレータ内のガソリンを抜いてください。古くなったガソリンは故障の原因となります。
エンジンを必ず停止し、万一の始動を防ぐため点火プラグ　キャップをプラグから取外します。

⚠警告

・ガソリンは非常に引火しやすく、また気化したガソリンは爆発して死傷事故を引き起こすことがあります。
・ガソリンを抜くときは
・エンジンを停止してください。
・火気を近づけないでください。
・換気の良い場所で行ってください。
・ガソリンはこぼさないように抜いてください。
万一こぼれたときは、布きれなどで完全にふき取り、火災と環境に注意して処分してください。

1．各部を清掃します。
2．エア クリーナを清掃します。（清掃:11頁参照）
3．エンジン オイルを交換します。（交換:10頁参照）
4．燃料タンク内のガソリンを抜きます。（本機側の取扱説明書を参照）
5．キャブレータ内のガソリンを抜きます。
　－1．キャブレータのドレン ボルトを外し、ガソリンを容器に受けます。
　－2．完全にガソリンが抜けたら、ドレン ボルトにシーリング ワッシャを組付けて、ドレン ボルトを確実に締付けます。
6．始動グリップを引き、重くなったところでファン カバーの中央の穴と始動プーリ△印を合わせます。

取扱いのポイント

・次回使用時は、新鮮なガソリンを入れてください。
・オイルは自然に劣化します。使用しない場合も定期的に交換してください。
（6か月に1回新しいオイルと交換）

7．ランマーを立てた状態、または正規位置に倒して、ビニール等でカバーをし、湿気、ホコリの少ない所に保管してください。

故障のときは

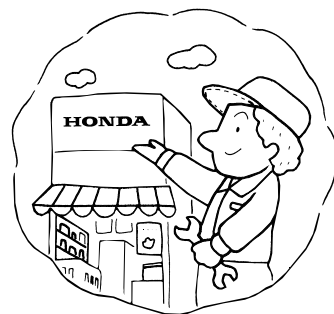
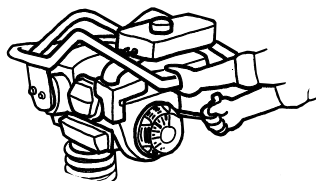
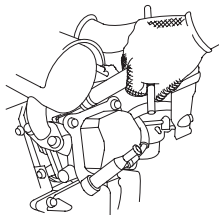
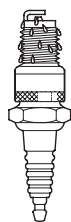
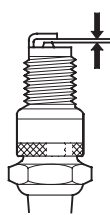
まずご自身で次の点検を行い、その上でなお異常があるときは、むやみに分解しないでお買いあげ販売店にお申しつけください。

エンジンがかからないとき

①燃料は十分に入っていますか?
入っていない場合は補給してください。(本機側の取扱説明書を参照してください。)
②フューエル フィルタに汚れ、詰まりはありませんか?
(本機側の取扱説明書を参照してください。)
③燃料コックがＯＮになっていますか?
(本機側の取扱説明書を参照してください。)
④エンジン スイッチがＯＮになっていますか?

⑤圧縮圧力は十分ですか?
・始動グリップをいきおいよく引いて、異常に軽い場合は、圧縮が洩れている可能性があります。

NO

OK

⑥点火プラグがぬれたり、汚れたりしてませんか?

●ぬれているときや汚れているときは清掃するか新しいプラグと交換してください。

⑦点火プラグのすきまは正しいですか?
・プラグすきまは0.7－0.8 mmです。

●すきまが正しくないときは調整してください。

⑧点火プラグを取付けて再度始動してください。

NO

・お買いあげの販売店にお申しつけください。

主要諸元

寸法はベーシックタイプの数値です。

名　　称	GX120
型　　式	GC01
全　　長	313 mm
全　　幅	331 mm
全　　高	321 mm
乾燥質量（重量）	16.5 kg
形　　式	空冷4サイクル傾斜形ガソリン(OHV)
総排気量	118 cm³
連続定格出力／回転速度	2.1 kW (2.9 PS)/3,600 rpm
最大出力／回転速度 (SAE J1349に準拠 ＊1)	2.6 kW (3.5 PS)/3,600 rpm
最大トルク/回転速度 (SAE J1349に準拠 ＊1)	7.3 N·m (0.74 kgf·m)/2,500 rpm
使用燃料	無鉛レギュラーガソリン
エンジンオイル量	0.40 ℓ（ランマー搭載角度14°時）＊2
点火方式	トランジスタ式マグネト点火
始動方式	リコイル スタータ

＊ 1:　ここに表示したエンジン出力はSAE J1349に準拠して3,600rpm（最大出力）、2,500rpm（最大トルク）で測定された代表的なエンジンのネット出力値です。量産エンジンの出力はこの数値と変わる事があります。
完成機に搭載された状態での実出力値はエンジン回転数、使用環境、メンテナンス状態やその他の条件により変化します。

＊ 2:　エンジン オイル量は本機の設定傾斜角度により異なります。

※諸元は予告なく変更することがあります。

Honda汎用製品についてのお問い合わせ･ご相談は、
まず、Honda販売店にお気軽にご相談ください。

販売店

TEL

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記の
お客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　　お客様相談センター

フリーダイヤル　　0120－112010（イイフレアイオ）

受付時間　　9：00～12：00　　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町８－１

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

Honda汎用製品に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速
にご対応させていただくために、あらかじめ、下記の事項をご確認のうえ、
ご相談ください。

①製品名、タイプ名
②ご購入年月日
③販売店名

30ZH7702
00X30-ZH7-7020

古紙配合率100%の再生紙を使用しています。